

火災件数・焼損床面積・死傷者数など

※ 数値はすべて速報値となります。

区分		板橋区計			板橋消防署管内			志村消防署管内			
		5/31 現在	前年 同期	増減	5/31 現在	前年 同期	増減	5/31 現在	前年 同期	増減	
火災件数 (件)	合計		93	62	31	34	31	3	59	31	28
	建物火災	建物計	67	45	22	25	22	3	42	23	19
		全焼	0	2	-2	0	0	0	0	2	-2
		半焼	2	1	1	2	1	1	0	0	0
		部分焼	8	7	1	2	2	0	6	5	1
		ぼや	57	35	22	21	19	2	36	16	20
	車両		4	4	0	1	1	0	3	3	0
	その他		22	13	9	8	8	0	14	5	9
焼損床面積（㎡）		235	272	-37	145	128	17	90	144	-54	
焼損表面積（㎡）		76	94	-18	25	60	-35	51	34	17	
死傷者数(人)	死者	3	2	1	1	1	0	2	1	1	
	傷者	76	94	-18	6	3	5	6	7	-1	

出火原因別件数（板橋区内）

火災の概要

令和7年		
順位	区分	件数
1位	電気	67
2位	たばこ	28
3位	放火	24

令和8年5月末現在の板橋区内の火災は、前年同期比で31件増加して93件となっており、火災による死者が3名発生しています。

火災の原因としては、電気機器やリチウムイオン電池関連火災を含む電気関係が引き続き多くなっております。また、たばこの不始末やこんろ・ガス器具など身近なものからの火災も増えています。

火災を発生させないためには、日頃からの防火意識が大切になってきます。コンセントの掃除やタコ足配線を避ける、家の周囲に可燃物を置かない、コンロ周りは整理整頓する、など大切な命や財産を守るために、日頃から出火防止・被害の軽減対策を心掛けましょう。

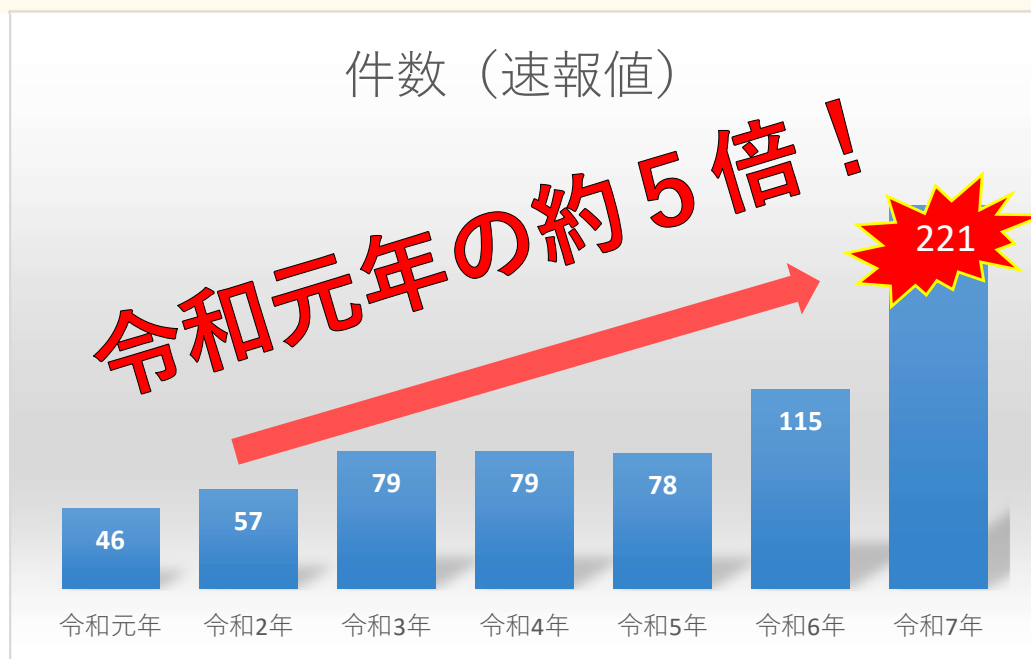


あなたの身近なリチウムイオン電池 大丈夫ですか？

リチウムイオン電池は充電して繰り返し使え、大容量で寿命が長いことからパソコンやスマートフォン、モバイルバッテリー、ハンディファン（扇風機）、コードレス掃除機など幅広い製品に使用されています。

リチウムイオン電池の中には、危険物に該当する液体を含むものがあります。叩いたり落下させたりして強い衝撃を与えることや、誤った方法で充電したり、無理に分解したりすると火災になる恐れがあります。

下のグラフは、東京消防庁管内で発生した、リチウムイオン電池による住宅火災件数の推移です。年々件数が増加しており、令和7年には過去10年間で最多の221件となりました。



どんどん件数が増えている。
使う人が増えたからかなあ。



実際の火災事例

【事例1】「充電中のモバイルバッテリーから出火した火災」

突然、住宅用火災警報器が鳴動し部屋を確認したところ、布団の上で充電していたモバイルバッテリーから火が出ているのを発見した。

【事例2】「外部からの衝撃により出火した火災」

テーブルに置いてあったスマートフォンに肘が当たり、床に落下した直後に出火した。

🔥 万が一火災が発生したら 🔥

火花や煙が激しく噴出している場合は
近寄らない。

火花や煙の勢いが収まったら、**大量の水**
や消火器で消火する。

大量の水で温度を十分に下げ、安全に配慮し**水没させる**。



YouTube動画
「STOP!リチウムイオン電池火災」



はじめに…

- 熱中症は重症化すると命の危険を伴うものです。
- 熱中症について正しい知識を持ち、熱中症対策を心がけましょう。もし、症状が出たときには適切な応急処置が行えるようにしておきましょう！

- 例年、夏季は気温の上昇とともに救急要請が増加します。救急出場が増加すると近くで待機する救急車がいなくなり、救急車の到着が遅くなるため、救える命が救えなくなる可能性があります。皆さん一人ひとりが熱中症対策を行い、健康被害を減らすことは自身の命を守るだけでなく、真に救急車を必要としている誰かの命を救うことにもつながります。

熱中症により搬送された件数の半数以上が65歳以上の高齢者！！

年齢区分別では、65歳以上の高齢者が4,426人で全体の半数以上を占めています。そのうち、7割以上にあたる3,322人が75歳以上の後期高齢者でした。高齢者と後期高齢者の救急搬送人数も過去最多となりました。



熱中症の対策とポイント

高温・多湿・直射日光を避ける

- 【屋外では】
- ✓ 帽子や日傘を使いましょう。
 - ✓ 日陰を選んで歩きましょう。
 - ✓ こまめに休憩しましょう。



- 【屋内では】
- ✓ 扇風機やエアコンを使用しましょう。
 - ✓ ブラインドやすだれで直射日光を遮りましょう。

水分補給は計画的、かつ、こまめにする

- ✓ のどが渇く前に、こまめに水分補給をしましょう。特に、高齢者の方は注意しましょう。
- ✓ 起床時、入浴前後にも水分を補給しましょう。
- ✓ 大量の汗をかいた時は塩分も補給しましょう。

こどもは大人よりも高温環境にさらされている

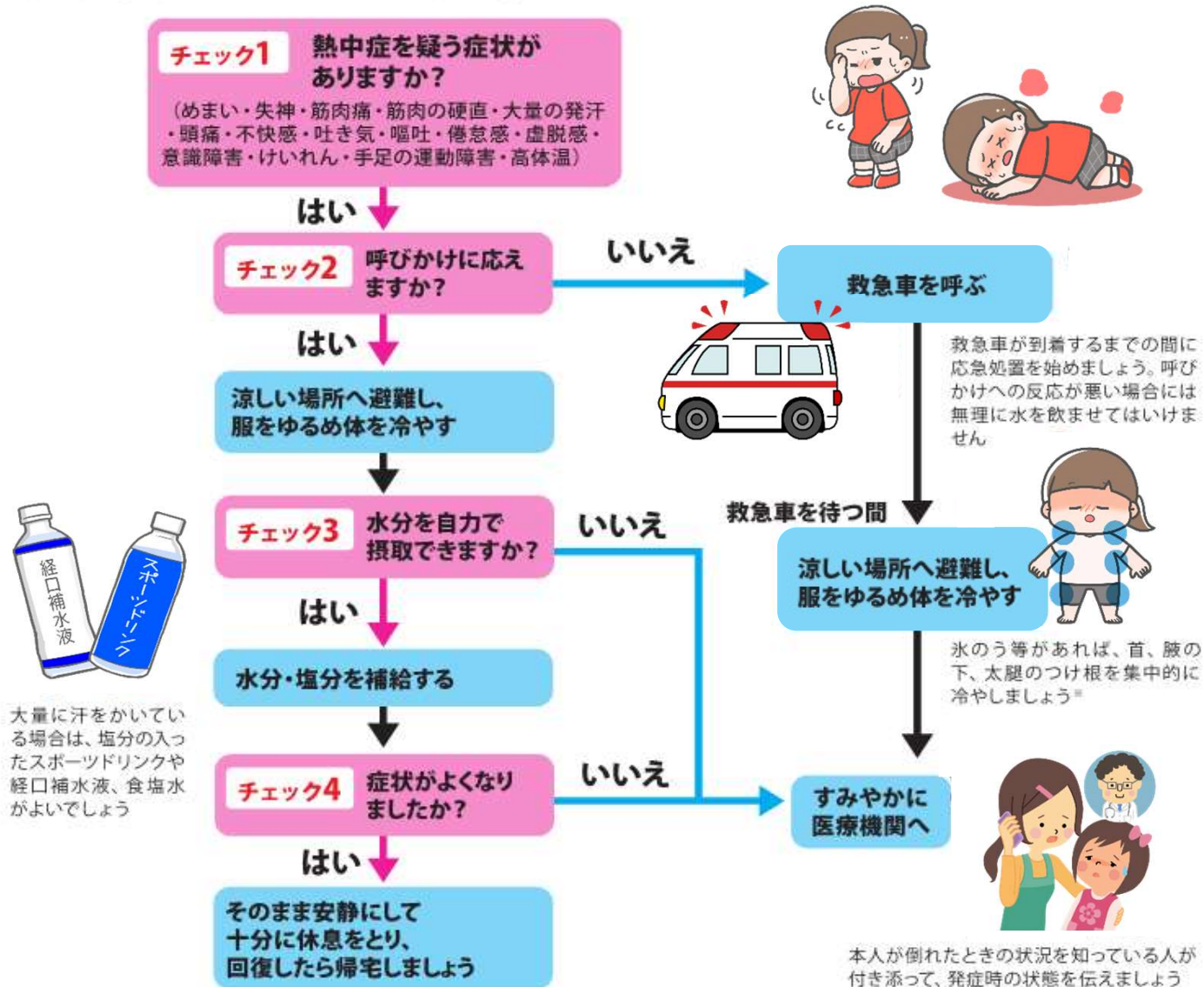
- ✓ 地面に近いほど輻射熱は高くなります。
- ✓ こどもは大人の想像以上に輻射熱の影響を受けていると考えましょう。

熱中症が疑われるときには・・・

熱中症を疑った時には、放置すれば死に直結する緊急事態であることをまず認識し、以下を参考に対応してください。

熱中症の応急処置

もし、あなたのまわりの人が熱中症になってしまったら……。落ち着いて、状況を確認してから対処しましょう。最初の処置が肝心です。



図：熱中症を疑ったときには何をすべきか

※スポーツや激しい作業・労働等によって起きる労作性熱中症の場合は、全身を冷たい水に浸す等の冷却法も有効です。

体温を効果的に下げるための方法の例

- 上着を脱がせ、服をゆるめて風通しを良くする。
- 皮膚に濡らしたタオルやハンカチをあて、うちわや扇風機で風を送る。
- 服の上から少しずつ冷やした水をかける。
- 氷嚢や冷えたペットボトルなどを、首、脇の下、足のつけ根にあてて冷やす。



感震ブレーカー（都独自の愛称：グラピタスイッチ）

【感震ブレーカーの普及について】

令和6年輪島市大規模火災を踏まえた消防防災対策のあり方に関する検討会の報告書において、大規模地震時の電気火災対策として感震ブレーカーの普及推進の必要性が提言されました。

【東京都における普及啓発】

都の地域防災計画において、**感震ブレーカーの設置率の目標は2030年度までに25%（都内全域）**と定められています。現状の感震ブレーカーの設置率は13%（令和6年度）となります。

なお、「首都直下地震等における東京の被害想定」では、**板橋区の被害想定が7割減少させることが可能**と推計されています。

東京都（総務局総合防災部） 補助金・普及啓発

令和6年度

- ・令和5年度から引き続き木密地域へ感震ブレーカー（コンセントタイプ）を無料配布
- ・普及啓発事業を展開開始

令和7年度

- ・区市町村に対し購入費用補助
【最大2万円（都負担：1万円）】
- ・住宅事業者へ感震ブレーカー購入費用補助
【上限3万円】

令和8年度

- ・区市町村に対し購入費用及び設置費用補助
【最大8万円（都負担：4万円）】
- ・住宅事業者へ感震ブレーカー購入費用補助
【上限3万円】
- ・プッシュ型広報（SNSなど）
- ・新たなネーミングの一般投票実施（～5/15）
「グラピタスイッチ」「でんき火災ストパー」「ファイヤーゼロブレーカー」

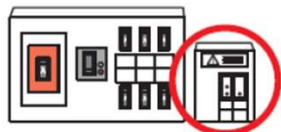
板橋区危機管理部

いたばし防災＋カタログは令和7年8月31日をもって事業を終了しましたが、感震ブレーカを含む防災用品について斡旋価格での案内を実施しています。

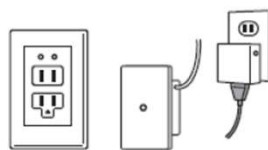
【感震ブレーカー種類】



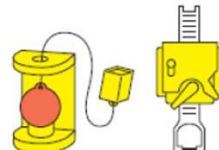
分電盤タイプ(内蔵型)



分電盤タイプ(後付型)



コンセントタイプ



簡易タイプ

地震発生時に設定以上の揺れを感知した場合に、電気を自動的に遮断し外出時や避難時にブレーカーを切る余裕がない場合等に電気火災を防止するための有効な機器です。

現在、市場に流通している感震ブレーカーは、分電盤タイプ、コンセントタイプ及び簡易タイプの3タイプに分類することができます。

作動時には電源が強制的に遮断されることから。夜間の照明の確保や在宅医療機器の予備電源の確保など、状況に合わせて対策をお願いします。